

解たす万圓は船料を、困レ物事こそき正威運社と申  
した。この日沖野水に警備隊署は臨出動を以て前線  
に他におつたが混雑の程も程もあらず唯煙然たる  
のみであった。

からこ日本海軍駐屯隊田中少佐の注意を仰り  
一日は前部甲板に集合し、代表一行は鈴木米宮佐  
川桂、西尾の順に甲板の欄干に倚り各々周視のレ  
ンズに下りて後鈴木氏は熱氣を三万余名の砲倉  
首を前より感激の涙を流すまがら、最後の告別  
挨拶をした。右の如き熱氣を振った。

菊田少佐の多隊隊舎議に始めて、曲りなりとし  
労働隊舎の代表とす、本日此帆に降しかく熱誠

ありお見送りを賜つた事は、實に感激に堪へ  
ず。私は田中少佐の御意の如く、先方のヤストを盡  
してその使命を果す事と茲に誓ひます。日本に  
残る強者も砲倉運搬の右女たに、努力して貴  
ひの、留守中は信賴する諸君に、善事を  
此せす。幸に強者の奮闘を祈る。

かくして各隊隊員は、声は、砲艦を離れ、彼  
等が、砲艦の意氣は、正に、砲艦隊員を、各々の  
機があった。即ち、各見送隊員は、各隊隊員  
を、高唱して、下船し、臨別會は、各隊隊員  
共に用意せし、下船し、一行を、港外、近見  
送り、午後、一行、引返して、陸し、三々、各々、帰路